

目的 衣服の構造が限定されているドレスシャツについて、風合いでとらえられる品質を客観化するために、年融りによる風合いの評価を消費者、製布、仕上げ、および縫製技術者を対象にして実施し、良い風合いのドレスシャツ地の力学的性質の範囲を明らかにする。

方法 市販のドレスシャツ地から、繊維組成、組織、糸づかいに関してかたよりなく、できるだけ広範囲のものを含むよう、116種の布を試料として選定した。年融りによって夏用および冬用のドレスシャツ地としての布の品質評価を、製布関係者、縫製関係者、消費者として男子学生、女子学生の4グループの被験者に対して、5段階評価を行った。一方、これらの試料の力学的性質はKES-FB計測システムにより、接触時の過渡的ひずみ伝達特性はサモラボを用いて測定した。また、力学的性質から薄地の布を対象とした基本風合い値を算出し、年融りによる品質の評価値と、基本風合い値、各々の力学的性質および熱特性との関係も多変量回帰分析の手法を用いて解析した。

結果 評価員の大部分は、夏用ドレスシャツとして良い布は、薄く、触れた時に涼感のあるもの、冬用として、暖かく、ふくらみがあり、ソフトな触感をもつものという評価が得られた。4グループの各評価値は、かなりの一致が認められ、多変量解析の結果、品質評価への寄与の大きいものとして、力学的性質では、圧縮特性、引張り特性、表面特性が挙げられ、夏用、冬用、各々の用途に対して、良い布のもつ力学特性、熱特性の範囲が捉えられた。また、これらによって相関係数0.8以上の高い回帰精度で、年融りによる品質を予測できる式を導いた。